

園児繪畫觀察の様式

—京都市保育研究會調査—

概括者 森 小 糸

一、はしがき

俗に病は、四百四病とか申しまして種々ありますが、夫れを見別けて適當な治療をしますのは誰が致しますのですか。申迄もなくお醫者様のお役目です、其醫者は手加減でのみ、人の身體を診察するかのようにですが。決してく左様ではなく、確な寄り所があるので御座います。さて身體の方面の事は醫者に任せれば宜敷が、幼兒精神的方面の醫者は、母なり保母なりの役目であります。併し幼兒の精神の方面と申しましたも、中々擴く、個々の精神的作用も幾つもくあります。其精神作用を盡く一時に調査することは到底私共のなし

得ることではないと存じて居りますが。去りとして、幼兒保育を日々仕事としてゐる以上は、少々なり共調査して見たいと思ひまして、

今年の二月頃から大學の檜崎先生に御願いたしました其調査の仕方を教へて戴き、又實際の指導を受けています。そして先づ、調査の比較的容易な幼兒の繪畫觀察の様式を探ねることにいたしました。

幼稚園時代の子供が繪を好んで見る事は、皆様方の御承知の事ですが、然らば好んで見て居ります所の繪に就て、ドンな見方を、致して居りますか。又幼兒の着眼點はどんな所に有ますか。夫れ等を明白に心得て居りませぬと、幼兒の精神を適

當に誘導することは出来ませぬ、故に幼兒の觀察を指導する前に、まづ其觀察の様式を知りたいといふのが、この研究に取り係りました、動機で御座います。繪畫により子供の觀察の様式を知る、實驗を初めて試みられし人は、ステルン氏で、同氏は七歳未満の子供は、個物の觀察であると申して居られますそうです『七歳以下の子供は觀察物中の比較的立ち離れたるもの、又は人のみを觀察し、或は實際には孤立せざるも、觀察の際之を全體より分け離し、個々に統覺す』と申されています相です、日本の幼兒は、果してこの結果と、同一でしやうか。

二、調査方法

觀察させました繪畫は、便宜上ドクトル三田啓氏の學齡兒童の智力検査法中の左の圖を用いました。検査に用ひました。(検査に用ひた圖には彩色が施してあり、又大きさも此挿圖の二倍であ

ります。

其調査方法は、至極簡單で始め幼兒に能く繪を見せて置き、『之は何の繪ですか』唯之だけで、其他少しも助言を用ひません、而して、幼兒の申た事を直にカードに記載致し、其内容の單一から複雑に進む程度を標準として、保姆が分類したものであります。調査にかゝりました、日時



は、大正五年二月初めより三月末日に至る間、毎日午前十時より十一時卅分迄。此調査を行つた幼稚園は、京都市の楊梅、開智、豊園、日彰、生祥、柳池、小川、乾隆の八園の保姆です。

其間に調査致しました人數は、六歳男百三十九

八、六歳女百四十九人、五歳男百人、五歳女六十五人、四歳男十三人、四歳女九人であります。

三、結果

幼児が繪畫を觀察いたします時、其見方は色々です。一二の例を擧げて見ますれば、前記の繪を示した場合は、幼児は、思ひ／＼の心に浮んだ事を答へます。(『お祖さん兄さん遊んで』はる『子供と喧嘩してゐる硝子が寫つて居る』『この學校にゆくと鳥が居ると言ふてはる』)など種々の答へを得ます。此答は幼児の觀察の着眼點を語つて居るのです、是等を概括分類して、見まして、次の十三様式になります。今其様式の下に例を添へて置きます。

幼児繪畫觀察を概括せし十三様式

一、不明(發表不能)……わからん、知らん、無言、
二、景色又は家具……雪が積つてる
三、命名人 人、形、…氷江り

四、個々の物の命名……靴

五、命名動作……人が柿摺んではる

六、人、動作、家具、景色……此子供さんが毬を持つてこ

ゝやぶらはつた

七、二人の動作……あつちに行くと思つたら向

ふにお行きやす

八、二人の動作、景色、家具……靴あげて、袴はいて、羽

織着て、下駄穿いて、足袋は

いて、障子がある、窓がある

九、三人の動作……ケツタ(隠れん坊)してはる、

あつち／＼と言ふてはる

十、三人の動作、景色……雪が降てる、雪達磨拵へては

る、雪がふつて學校に行か

はると、お祖父さんが止て

はる

十一、三人の動作、家具……黄色の帽子をきてる人、

雪の丸拵へてはる、兄さん

が靴さげて、お父さんが向

園名		年齢	人員	観察様式	幼児の繪畫の観			
園名	年齢	人員	観察様式	不 明(發表不能)	景色又ハ家庭 命 命 個々ノ物ノ命名 命 命 人ノ動作(衣 景 色)	人ノ動作	二人ノ動作	二人ノ動作景色衣 具
楊梅	六歳男	實 三〇	%	三〇	一〇	三	一	三
開智	同	實 一四	%	一四	一〇	三	一	三
豐園	同	實 七	%	七	一〇	三	一	三
日彰	同	實 一	%	一	一〇	三	一	三
柳池	同	實 三	%	三	一〇	三	一	三
小川	同	實 二	%	二	一〇	三	一	三
乾隆	同	實 七	%	七	一〇	三	一	三
合計比	同	實 一三	%	一三	一〇	三	一	三

ふへ行くのやと言ふてはる

十二、三人の動作景色及家具：雪が降る朝ね—此

人と此人と雪投げして硝子

に當てはつたかい過てはる

十三、人と物との眞の關係：雪が降て學校へ行け

と、言ふてはるのに行かは

らん、障子が有る後の「カ

觀察の檜式と幼兒の分配

「コイ」の所で、雪をかため
てほらはつた、硝子が破れ
た、雪が積つてる

總括 各幼稚園の所在は、上京、中京、下京にあり
て幼兒の家庭の情況が異なりますから、自然繪畫觀
察にも多少の違ひは、御座いますれど、總括して、
各様式と人數との關係を次の表で示します。

は、男女の區別が餘り有りません。そして此種の調査は、成るべく多人數が宜敷いのであります。今回は、以上の人數より得られませなんだが、兎に角此繪畫觀察調査の結果としましては、六歳五歳とも男女通じて『三人の動作、二人の動作、三人の動作景色及家具』といふ觀察の様式が正常な

机邊より

○ペスタロッチとフレーベルとの弱點

——ハイワード氏『ペスタロッチ及フレーベルの教育觀』より——

紹介子

ペスタロッチもフレーベルも教育の目的といふことに就てはハツキリとは述べて居りません。この點に於てこの二教育家は遙かにヘルバルトに劣つて居るやうであります。

ヘルバルトは教育家の仕事に整齊と調和とを與

る見方の様です。かゝる見方の心理學上の解釋は甚だ大切で又興味あるものと思ひますが、それは、私共の力の外ですから遺憾ながら結果のみ述べて置きます。(尙ほ此種の調査を當市内各幼稚園より追々發表せられる筈であります。)

ふべき唯一の目標として人格構成といふことを擧げて居ります。ヘルバルトはその著『普通教育學』の中で「教育の唯一の目的は一つの概念——即ち徳性に概括せらる」と明かに述べて居ります。この目的から演繹せられて居るのがヘルバルトの教